

令和3年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立静浜幼稚園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

＜評価方法＞

- 下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
- ※点数は左記のとおり＜A…そう思う（4点）／B…どちらかといえばそう思う（3点）／C…どちらかといえばそう思わない（2点）／D…そう思わない（1点）＞
- 項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点	
保護者・教諭 同一項目	園児の状況について	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.7 /4
		2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
		3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
		4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
		5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
		6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
		7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
		8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
		9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
		10 園目標「心も体も元気な子」に近づいてきている。	
保護者への対応	応保に護つ者への対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.8 /4
		12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会（参観日等）を作っている。	
		13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
		14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
安全対策	に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.8 /4
		16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
		17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	教育理念・保育観について	18 子ども一人一人の人権を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.5 /4
		19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
		20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
		21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくうで説明するよう努めている。	
		22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
		23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
		24 子どもの状況に合わせ、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
		25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
		26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
		27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
		28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
		29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
環境指導計画、援助計画、週い・日案、幼児理解	環境指導計画、援助計画、週い・日案、幼児理解	30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える（遊び用具や掃除用具の片付け等）ことを促す工夫をしている。	3.5 /4
		31 時間や提出物の期限を守っている。	
		32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。	
		33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	
		34 子ども一人一人の実態（発達の状況や興味の対象等）を把握したうえで指導計画、週案、日案を作成している。	
		35 子どもの意欲を誘うよう十分工夫した環境構成がされた日案を作成している。	
		36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適した環境を準備し、具体的な対応をしている。	
		37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
		38 指導計画、週案、日案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
		39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案・日案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた日案を作成し、実践している。			
41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。			
42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。			

総合平均点数	総合評価（評価項目の達成及び取組状況）
4～3.1	A…十分達成されている
3～2.1	B…達成されている
2～1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1～0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.7 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

総合評価において評価Aをいただき、ありがとうございます。保護者・教師同一設問項目「園児の状況について」の回答から、園児が幼稚園を楽しみに通い、安心して自分の思いを出し、自ら好きな遊びを見つけて遊んでいると読み取ることができます。園目標「心も体も元気な子」重点目標「自分の思いを出す子」に近づいていることを喜ばしく思いました。

昨年度の反省から、今年度は挨拶に力を入れてきました。保護者にはPTA懇談会などで、園児には学期ごとの始業式や終業式などで折に触れ、挨拶について話をするよう心掛けました。毎朝登園時に、門で出迎え挨拶をしていると、保護者にも園児にも少しずつ変化が見られてきたと感じます。しかしまだ自分から元気づく挨拶する、という姿ではなく、それが項目8の回答に表れています。今後も保護者と共に、大人がモデルとなり、気持ちのよい挨拶の励行に努めていきたいと考えます。

・本年度努力した点、改善した点

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、保護者の方の一堂に会する機会が減る中で、子どもの姿を保護者に見ていただき、成長を伝えることができるよう職員で話し合いました。学年ごと日を変えたり、時差を付けたりすることで、一度に集まる人数を減らし、感染症対策と行事の両立を図るようにしました。また、昨年度好評を博した保育参加は今年度も継続して行いました。

新たに縫い物ボランティアを募り、ボランティア活動を3つに増やしました。一人一つまでという募集の仕方でも、より多くの方が参加できるようにし、保護者同士、親しく交流を重ねる機会としてもらえるようにしました。

・苦心した点、反省すべき点

集団降園時の安全確保と、園運営の観点から、降園コースの見直し、削減を行いました。全ての保護者に納得していただけるような、十分な説明をすることができなかったことは反省点です。変更に伴い、保護者の皆様の御理解、御協力をいただきました。

昨年度、今後も継続する課題としてあげた時差降園については、保護者への説明を重ね、御理解いただけているものと思います。保護者から御意見のあった満3歳児保育や教育時間外の活動につきましては、公立幼稚園のあり方を周知し、御理解いただけるよう、努力していきます。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

来年度も継続して、園目標「心も体も元気な子」重点目標「自分の思いを出す子」を目指し、保育をしていきます。子どもが自ら興味や関心をもち、自信をもって生活や遊びに取り組む中で、自分の思いを出せるようになっていきたいと考えます。そのために幼稚園が安心・安全な場となることを基本とし、伝えたい経験があり、伝えたい人がいる環境を作ります。初めは表情や仕草、態度など言葉でなくても、やがては自分の言葉で、相手に伝わるように思いを出すこと、そして、より多くの場で自分の思いを出す子になっていくことを願い、一人一人の育ちに合わせた環境や援助の工夫をしていきます。気持ちのよい挨拶を交わすことは、その基礎でもありと考え、これからも大事にしていきます。

さらに地域に根付いた幼稚園を目指し、地域との繋がりを深めていきたいと考えています。子どもたちが様々な人、物、ことと関わることでできる環境を、園だけにとどまらず、地域の方々と一緒に作っていただけるように働きかけていきます。